

【第1回全国煮干しサミット in 雲仙大会の開催】

令和6年4月20日（土）及び21日（日）、雲仙市小浜町の市小浜体育館において「第1回全国煮干しサミット in 雲仙大会」が開催されました。

橘湾沿岸では、まき網漁業や敷網漁業により煮干しの原料となるカタクチイワシが漁獲され、漁村地域において煮干し加工が盛んに行われています。しかしながら、様々な影響により生産量が年々減少していることを危惧した地元漁業者が立ち上がり、煮干し文化の継承や情報発信を目的に、このたびのサミット開催に至った次第です。

20日（土）は、「煮干しの未来を考えよう」と題してシンポジウムが開催され、学習院女子大学の品川教授による煮干しの現状と未来についての基調講演や現場からの報告、煮干しの解剖活用講座や煮干しの出汁教室のワークショップ、パネルディスカッションが行われました。また、ステージでは演歌歌手の鳥羽一郎さんのショーもあり、多くの家族連れで賑わっていました。

21日（日）は、煮干しに関するトークショーや前日から引き続き煮干しなどの即売会、ワイヤーマルシェが開催され、午後からは橘湾東部漁協所属の組合員による漁船パレードが行われました。

両日ともあいにくの雨模様の天気でしたが、会場は多くの人で賑わっていました。



煮干しサミット・メインアリーナ



ワークショップ風景



パネルディスカッション



漁船パレード